

## 農業者への実需者情報提供とマッチング支援

### ■背景とねらい

農業者が自主販路の開拓・拡大を進めるうえで、実需者と相対する商談会は有効であり、例年南信州独自あるいは県主催の商談会が開催されている。昨年度に引き続き、商談会はWEB形式での開催となったため、参加する農業者が対応できるように支援を行った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 WEB商談会の情報提供と参加支援

管内で販路拡大に意欲的な農業者、農産加工事業者等に対して、「おいしい信州ふーど発掘WEB商談会」等への参加をメールや巡回等により働きかけた。参加希望者に対しては、個別にFCPシートの作成支援等を行った。

令和3年度はWEB商談会が8回開催され、管内からは4事業者が参加し、3件の商談が成立した。

#### 2 勉強会の開催

昨年度から開始したWEB商談会では、経験の少ない事業者が商談をうまく進められないことが課題となっていたため、南信州地域振興局が主催となり、「FCPシート・オンライン商談会の理解を深める勉強会」をオンラインで開催した。10事業者が参加し、FCPシート作成やオンライン商談会の進め方についての理解を深めた。

#### 3 実需者情報の拡大と契約取引の拡大

中山間地域農業新需要創出事業による実需者情報を、契約取引の拡大を希望している農業者に随時提供し、取引成立に向けて支援を行った。令和4年1月末時点では、市田柿や梨などの取引を含む12件の新規取引が成立している。

### ■今後の課題と対応

販路拡大を希望する農業者には、引き続き商談会や実需者情報の提供を行い、農業者の所得向上につながるよう支援をしていきたい。

(地域第二係：天野 瑠佳)

## 南信州におけるグリーンツーリズムネットワークのあり方検討

### ■背景とねらい

管内のグリーンツーリズムに関する普及活動の主な対象である「この指とまれつながり逢いの会」が、会員の高齢化にコロナ禍が重なり、活動が縮小し、過渡期に差し掛かっている。そこで、都市農村交流活動の新たな担い手を育成するため、農業者に地域おこし協力隊関係者などを加えたこれからのネットワークのあり方を検討した。

### ■本年度の取組と成果

1 「この指とまれつながり逢いの会」の活動支援会の中心的役割を担う代表及び会計とこれからの活動の在り方について検討を重ね、人的なネットワークの維持と定期的な情報交換は継続するが、定例会や総会、研修会は行わないこと、後継者育成に努めることを確認した。

#### 2 新しい担い手組織の検討

農家民宿を営む若い農業者やゲストハウスを営む地域おこし協力隊経験者ら10人を対象にネットワークの必要性についてアンケートを実施した。

現在、これら宿泊事業者には横のつながりが少ないことから個々の経験やネット情報などに基づいた営業に不安を感じる者が多く、地域の情報収集や実体験を共有するネットワークが必要であるとの回答が大半を占めた。一方、目的が不明確なグループへの所属や集合形式での会議への参加には否定的な回答も多かった。

### ■今後の課題と対応

SNSなどの機能も活用した新しいネットワークの構築により、情報共有とあわせて「この指とまれつながり逢いの会」が培ったノウハウの農家民泊経験の浅い経営者らへの継承支援などを通じて、農業農村体験や地域食材を使った郷土料理など南信州の持つ魅力の継承を図る。

この活動は、中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用している。(阿南支所：高橋 博久)

## 「大人の食育食事会」による食育の推進

### ■背景とねらい

南信州地域に暮らす消費者を対象に、地元産農畜産物を使った料理を、見て、食べて味わい、併せて食材の生産や調理に関わる方の思いなどをお伝えする中で「食」に対する理解を深めてもらい、地産地消や消費の拡大につなげるため、「大人の食育食事会」を企画した。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 開催に向けての取組

地元食材にこだわりのある料理店と連携し、南信州らしさのある食材の選定や開催方法を検討した。

メインの食材は、「鹿肉（ジビエ）」、「下栗芋（信州の伝統野菜）」、「市田柿（G I登録品目）」及び「シードル（地元醸造）」とし、料理法は料理店に一任した。また、メイン以外の食材についても、極力地元産を使用いただくこととした。

開催内容は、「南信州産の食材を用いたコース料理による食事会」とし、食事中に、①調理人による調理によせる思いなどのプレゼン、②食材生産者等による生産にかける思いなどのプレゼン、③参加者との意見交換会を実施し、④参加者にはSNSなどを利用した情報発信の依頼を行うこととした。

#### 2 開催延期

新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で、当初令和4年1月末の開催を企画していたが、まん延防止等重点措置が発出中の開催はリスクが高いと判断し、実施を延期した。

### ■今後の課題と対応

季節ごとに食材が変わるため、開催時期に合った食材の調整をしつつ、地元産農産物等の生産振興のため、引き続き開催を計画していく。

（地域第三係：池浦 毅）

## 小学生の大豆「つぶほまれ」栽培（飯田市）

### ■背景とねらい

つぶほまれ栽培・加工研究会（事務局：南信州・飯田産業センター）が中心となり、大豆加工会社・JA・飯田市農業課とともに、市内小学校3校の2年生を主体に、大豆栽培を通しての食育活動を実施した。小学生から農作物を栽培することにより、農や土へ親しみ、自分で育てた大豆による農産物加工まで体験できるように計画し、関係機関とともに総合的な支援を行った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 「つぶほまれ」学習会の開催

大豆栽培を前に、3小学校とも大豆の栽培や加工などの事前学習会を開催。「つぶほまれ」の特徴を農業農村支援センター、大豆の栄養価や加工方法などを大豆加工会社、加工技術について産業センターで担当し、プレゼンテーションを行った。

#### 2 大豆「つぶほまれ」の栽培体験

6月中旬に播種をした。生徒の少ない小学校では、地域の方々や保護者等が応援に来て一緒に播種を手伝っていただいた。

#### 3 収穫・加工体験

10月に自ら収穫した大豆と、大豆加工会社から提供された地元産「つぶほまれ」を使って、きな粉、炒り豆、豆腐、味噌に加工した。



小学生のつぶほまれ収穫風景

### ■今後の課題と対応

令和3年度は8月の長雨やカメムシ被害粒の発生等により減収した。例年安定した収穫となるよう、関係機関と連携し、栽培を支援していく。

この活動は、中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用している。（地域第二係：小原 繁）

## 農産物直売所が抱える課題解決の支援

### ■背景とねらい

管内の農産物直売所は、設置から20年以上経過した施設が多く、出荷者の高齢化による品揃えの低下や、新たな出荷者の確保等、運営上の課題を抱えている。

このような直売所が抱える課題の解決を支援するため、農産物マーケティング室と連携し、アドバイザーの派遣による運営改善の支援を行った。

### ■本年度の取組と成果

設置後24年目を迎える直売所に対し、令和4年1月20日にアドバイザー2名による運営アドバイスの機会を設けた。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、webシステムの利用により開催した。

当該直売所が抱える課題は多く出されたが、中でも、組合員の若返りや世代交代の工夫が大きな課題となっていた。

組合員の若返りに関しては、新規生産者の台頭を懸念する既存の生産者が多く、多くの直売所では新規栽培者の募集を行っていないケースが多い中、直売所の大きな魅力である品揃えの確保を図るためには新規組合員の確保がとても重要であるとのアドバイスがなされた。具体的には、チラシ配布による募集の際、時期別に不足する品目を一覧で示して作付けを促すことや、入会金がハードルとなっている場合は、“お試し入会制度”を設けて、1年間程度直売を実際に体験して収入を得てから、改めて入会してもらおう仕組みが紹介された。

これらのアドバイスを受け、当該直売所では早急に新規会員募集の案内を行うこととなった。

### ■今後の課題と対応

管内にはインショップを含めて72か所の農産物直売所があるため、アドバイザー派遣制度を活用し、引き続き運営改善等の課題解決支援を行う。

(地域第三係：安藤 忠幸)

## 「ガレット」で地元食材の魅力確認と消費拡大

### ■背景とねらい

新型コロナウイルスの感染拡大によって需要が減少したそば粉や旬の野菜、果物、ジビエなどについて地消地産の拡大を図るため、これらを食材とし、メニューに取り上げる飲食店も増えるなど認知度が高まっている「ガレット」について、地元食材の新たな活用方法の普及に取り組んだ。

### ■本年度の取組と成果

ガレット教室の企画段階から市町村の農政担当者や管理栄養士と打合せを重ね、農村女性ネットワークや子育て世代、農家民宿や農家レストラン経営者など幅広い層に参加を呼び掛け、信州伊那谷ガレット協議会南信州支部長を講師に迎え、5月に飯田市竜丘地区(18名)、7月に根羽村(20名)、9月に天龍村(11名)、12月に大鹿村(11名)で開催し、合計60名に参加いただいた。

参加者は、講座を通じて調理手順の簡便さや多くの地元食材が使える適応性の高さを実感し、栄養バランス等に関する知識も得ることで、新たな地元食材の魅力を発見するとともに消費拡大に向けた実践的ノウハウが習得できた。また、季節ごとの「旬」の地元食材を活用したオリジナルガレット開発に向けたワークショップも行った。



(根羽村で開催したガレット教室)

### ■今後の課題と対応

ガレット以外でも地元食材を美味しく食べることが出来るイベント等を通して、地消地産を推進する。本活動は、中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用している。(阿南支所：高橋 博久)